2024 年 12 月 19 日

業績予想の修正等に関する説明会における回答集

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
この度は、2024 年 12 月 13 日に開催しました業績予想の修正等に関する説明会につきまして、数多くのご質問を賜り、誠にありがとうございました。
いただいたご質問のうち主要なものに対する当社の回答を以下にお示しします。
今後も引き続き当社に対するご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

目次

1．株価・経営全般について 2
2．経営体制・経営責任について 4
3．テゴプラザンについて 6
4．ファイメクスについて 8
5．IR について 10
6．パイプライン・研究開発について 11
7．その他 12

ラクオリア創薬株式会社 名古屋市中村区名駅南一丁目 21 番 19 号 名駅サウスサイドスクエア 8 階 〒450-0003 www.raqualia.com

１． 株価・経営全般について

Q1-1.　現在の株価・時価総額は妥当と考えているのか。

A1-1.　株価について割高/割安とコメントするのは適切ではないと考えておりますが、当社は現在の株価と時価総額には満足しておらず、当社の企業価値を正確に反映しているものとは考えておりません。市場のご評価を得られていないという現実を真摯に受け止めて事業に取り組んでまいります。

〔関連するご質問〕

Q1-1-1.　株価低迷の理由は何だと考えているか。

A1-1-1.　株価の低迷、すなわち市場からの評価が低いことを真摯に受け止めております。現在の市場環境では、大型の契約、すなわち二桁億円の契約一時金とともに総額で 3 桁億円の収益を期待できるものを獲得すること、次いで自社で臨床開発を進めて POC（Proof-of-Concept（概念実証））に到達することが株価形成には必要と考えております。

当社のパイプラインと財務状況からは、やはり新たな大型契約の獲得が重要であり、その実現に至っていないことが株価低迷の主因と考えております。テゴプラザンの日本におけるライセンスにご期待頂いた株主様も多くいらっしゃいますし、その期待に応えるべく取り組んでおります。残念ながら今期の締結に至りませんでしたが、交渉は着実に進展しております。契約締結の実現によって、当社に対する評価を変えて株価の向上を図ってまいります。引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

Q1-1-2.　希釈化を伴う増資は今後やめていただきたい。

A1-1-2.　多くの既存株主様にとって希釈化は潜在的にマイナスのものとして受け止められていると考えております。しかしながら、創薬ベンチャーのビジネスモデルにおいて成長性の拡大は極めて重要です。創薬ベンチャーが上場することの意義は成長性の拡大の為の資金を市場から調達することであり、機会を捉えて資金調達をすることの必要性については何卒ご理解を賜りたくお願い申し上げます。

一方で、既存株主の皆様と同様に当社も株価が非常に重要と考えております。市場からの資金調達を行う際には、調達した資金でさらに成長するとご期待頂けるような事業計画を示すことと、魅力ある新薬候補の創出や臨床開発の進展、新たなライセンス契約の獲得によるマネタイズ化といった実績をお示しすることが強く求められていると考えております。上場創薬ベンチャーとして将来も増資を全く行わないとお約束することはできず、この点についてはご理解を賜りたく存じますが、当社としましては、株主様にご理解頂けるファイナンスで大きな成長を描きたいと考えております。

ラクオリア創薬株式会社　名古屋市中村区名駅南一丁目 21 番 19 号 名駅サウスサイドスクエア 8 階 〒450-0003　www.raqualia.com

Q1-1-3.　2022 年に増資をしたことが株価下落の発端だったと感じる。株価下落後に長期の銀行借入を行っているが、それならば最初に銀行借入を行えばよかったのではないか。

A1-1-3.　2022 年に銀行借入を行えたのではないかというご指摘ですが、そのタイミングでその規模の長期借入はできなかったと考えております。今年の第 1 四半期に長期借入が実現した背景は、ロイヤルティ収入の拡大を背景にした 2021 年と 2022 年の 2 期連続の黒字と、新たな成長に向けた事業戦略として M&A による標的タンパク質分解誘導（TPD）技術の獲得によって新モダリティに進出するという点を、銀行団に評価いただいたことによるものです。2022 年末には長期ローン借入は現実的ではありませんでした。

Q1-2.　2024 年から 2026 年の売上・利益が大幅な下方修正となっており、銀行借入の返済もあることから資金不足に陥っているのではないか。

A1-2.　2024 年 12 月期末の手元資金の見込み額は 39 億円です。当座の事業費用は確保されており、今後も事業費用を適切に制御することで、資金不足に陥る事態を回避できると考えております。また、今回更新した中期事業計画は以前に比べて大幅に保守的とした想定に基づくものです。できうる限り売上と利益の上積みを図ってまいります。

Q1-3.　研究開発投資が企業価値の向上につながっておらず、株価はそれを反映していると思う。全ての研究開発行為を止めてロイヤルティ回収に専念する考えはないか。

A1-3.　これまでの研究開発投資が十分な成果を上げていないというご懸念を抱かれているものと存じます。確かに、個別のプログラムやパイプラインにおいては、投資の回収に至っていないものがございます。創薬において全てのプログラムで投資を回収することは事実上不可能ですが、回収の可能性を高めるべく不断の努力を重ねてまいります。
その一方で、創薬ベンチャーである当社にとって研究開発投資は不可欠と考えております。研究開発を止めてロイヤルティ回収に専念するということは当社が成長を諦めて縮小均衡を受け入れることを意味します。当社はそのような事業モデルの変更は株主価値を毀損すると考えております。

Q1-4.　自社株買いの予定はあるか。

A1-4.　前期と当期で二期連続の赤字となりましたので、現在、利益剰余金を用いた自社株買いを行うことができない状態です。そういった問題が解消した後に、市況、株価等を多面的に勘案して検討してまいりたいと考えております。

〔関連するご質問〕

Q1-4-1.　9 月に行った従業員向けのストックオプションの発行は、新株ではなく

ラクオリア創薬株式会社　名古屋市中村区名駅南一丁目 21 番 19 号 名駅サウスサイドスクエア 8 階 〒450-0003　www.raqualia.com

自社株買いした株を与える方法でやるべきではなかったか。

A1-4-1.　有効な選択肢の一つであると存じます。自社株買いが可能な状況ではこういった手法も検討していきたいと考えております。

Q1-5.　他社からの買収提案やそれに乗ることは無いか。

A1-5.　仮にそういったことがあった場合には、株主の皆様をはじめとする当社のステークホルダーの方々の利益に叶うかどうかを慎重に判断してまいります。
現在の時価総額が低いために買収の懸念を皆様に抱かせているものと存じます。現在の時価総額が当社の真の実力を反映したものとは思っておらず、現在の株価と時価総額が満足いくものとは考えておりません。市場からの評価を高めることが当社に課せられた使命と考えております。

Q1-6.　CVI investments に割り当てた新株予約権の変更予定はあるか。

A1-9.　株価を上昇させて行使可能な水準を目指すことが第一であると考えておりますが、新たなエクイティストーリーによって価額の見直しを図って行使を促すという手法等も含めた複数の選択肢を検討してまいります。

Q1-7.　契約締結やマイルストンの遅延は言い訳にならない。結果的に達成できなかったことを含めた計画を投資家に示したことに詐欺的な意図を感じる。投資家の損失をどのようにカバーするかを教えてほしい。

A1-10.　計画が未達に終わったことは真摯に受け止め、見通しの精度向上に努めねばならないと考えておりますが、当社に詐欺の意図は全くございません。
契約交渉相手や提携先とのコミュニケーションの中で契約締結の確度やマイルストン達成の見込みを立てつつ、その上でリスク係数を掛けて計画数値を立てておりますが、契約締結や提携先でのマイルストンの時期を当社側が 100%コントロールできることはなく、変動要素が有る点は何卒ご理解をお願いいたします。変動が生じた際には、情報の入手と分析の正確性を高めること、状況の変化に応じて別の収益機会を追及すること、さらに事業費用の適切なコントロールにより収支を改善することなどの対応をとってまいります。

２．　経営体制・経営責任について

Q2-1.　安定したロイヤルティ収入が得られる会社であるにもかかわらずその企業価値を大きく損なったと感じている。その責任の重さに対して、代表取締役の異動や報酬の減額・返上はペナルティとして低すぎるのではないか。

A2-1.　今回、業績下方の下方修正に関する経営責任を明確化するものとして、2025 年 1 月―3 月において業務執行取締役の月例の固定報酬の 10%減額を行いました。2025 年 4 月

ラクオリア創薬株式会社　名古屋市中村区名駅南一丁目 21 番 19 号 名駅サウスサイドスクエア 8 階 〒450-0003　www.raqualia.com

以降の役員報酬につきましては、指名・報酬委員会で厳正に審議の上で決定することとしております。
現代表取締役の武内は、2021 年 3 月 25 日開催の第 13 回定時株主総会において株主価値の向上を掲げた株主提案により取締役に選任されたという経緯がありますが、昨今の当社株価の推移を真摯に受け止め、経営責任を明確化するためとして、12 月末をもって代表取締役を辞任するとともに来年 3 月の定時株主総会の終了をもって取締役の職を下りるという決断をいたしました。さらに監査等委員の柿沼からは、株主提案の提案者として取締役候補者の選任と昨今の株価低迷の責任を明確化するものとして、2025 年 1 月~3 月において月例報酬の 100%を辞退するという申し出がありました。当社は、柿沼監査等委員は監査等委員としての職責を誠実に遂行しているとの認識でありますが、「株主の皆様のご意見を真摯に受け止め、報酬を辞退したい」との本人の意向が強く、本人の意思を尊重し、報酬辞退を受け入れることといたしました。
これらの措置が不十分であるという皆様のご意見は真摯に受け止めております。その上で当社役員に課せられた使命は、業績を向上させ成長性を拡大していくことと心得、それに向けて全力で取り組む所存です。

Q2-2.　株価低迷の経営責任を取っての代表交代に際して、後任者がテゴプラザンの日本導出を本年中に完遂できなかった須藤氏であることに矛盾はないか。
A2-2.　株価の低迷はひとえに代表取締役の責任であると考えております。もちろん、ライセンス契約の有無が株価に与える影響が決して小さいものではないと株主・投資家の皆様はお考えでしょうし、私たちもそのように理解しています。
本年中の成約には至らないものの契約交渉は着実に進展しています。須藤に契約締結の完遂を託したいというのが取締役会の総意であるとしてご理解いただければ幸いです。

Q2-3.　須藤新代表取締役の強みは何か。
A2-3.　（武内代表取締役のコメント）須藤は私が財務経理部長であった時の同僚で、当時は化学研究部長の任にありました。その後、二人とも当社を一度出ていましたが、私が株主提案を経て当社に戻る際に一緒にやってほしいと頼みました。複数の理由がありました。一つはサイエンスのバックグラウンドがしっかりしていること。そして、当社が過去に生み出した開発化合物の中で彼がリードしたものが数多くあること。当社の内情を理解していること等です。2021 年以降は、経営サイドで多面的な業務をやってもらいましたが、その中で経営者として多面的な視点や経験を得たことも強みだと認識しています。
（須藤取締役のコメント）私自身が強みはこれだと申し上げるよりも今後の事業の実績・成果からご判断いただくべきものと考えております。国内企業での創薬研究が私の出発点ですが、外資系企業、当社、さらにアカデミアやスタートアップ企業も経験しております。幅広い視点で思考・判断を行い、当社の事業に貢献してまいりたいと考えております。

ご支援並びにご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

Q2-4.　柿沼氏が役員報酬の返上をされるとのことだが、来期以降も役員を継続されるか。株主提案を支持した者として事業と株価が飛躍を遂げるまで役員を続けていただきたいと考えている。

A2-4.　来期以降の役員候補者に関しましては、来年 3 月の定時株主主総会に提出する議案として皆様にお知らせいたします。当社としましては、柿沼監査等委員は職責を誠実に遂行していると認識しております。さらに、柿沼監査等委員ご自身として、今後も当社で責任ある立場にあって株主・投資家の皆様の期待に応えたいという意向を持っていると理解しております。

3．テゴプラザンについて

Q3-1.　テゴプラザンの日本国内ライセンスが昨年に引き続く延期となりながら、2025 年に成約できるとする見通しの根拠は何か。

A3-1.　現在、提携協議を進めている企業様において、意思決定に重要な一段階を通過したことによる部分が大きいと考えております。重要な一段階とは何かにつきましては、交渉への影響を鑑み、詳細の回答を控えさせていただきますことをご了承ください。

〔関連するご質問〕

Q3-1-1.　テゴプラザンの日本国内ライセンスが難しいのは先行品であるタケキャブの存在によるものか。

A3-1-1.　P-CAB として日本国内市場で大きな地位を占めておられますので、国内では二番手となるテゴプラザンが市場でどのようなポジションを取って売上・利益を上げていくのか、そのための市場参入戦略をどのようにすべきかという点では、タケキャブの存在はライセンス先の企業様の判断への影響していると考えております。こういった状況の中で、ライセンス先候補の企業様に導入を決断して頂けるように、必要な支援や情報提供に全力を注いでまいります。

Q3-1-2.　米国の NERD（非びらん性胃食道逆流症）の試験が仮に失敗しても日本でのライセンスは可能か。

A3-1-2.　交渉先の企業様の判断によることであり当社がお答えするのは適切でないと考えておりますが、一般論としましては、日本国内で NERD の適応が取れるかどうかによって将来の売上額が影響を受ける可能性がございます。この点が判断に影響する可能性は否定できませんが、当社としましては良好な結果を期待して発表を待ちたいと考えております。

ラクオリア創薬株式会社　名古屋市中村区名駅南一丁目 21 番 19 号 名駅サウスサイドスクエア 8 階 〒450-0003　www.raqualia.com

Q3-1-3.　イノエン社が原薬を製造することが日本でライセンスすることの難しさに何か関係しているか。

A3-1-3.　特定の企業が原薬供給元になることがライセンス契約の判断にどのように影響しているかについて、当社として具体的に認識していることはありません。一般論としましては、原薬・製剤の供給を他社から受けるか自社で製造するかは事業性判断に影響する事柄と思われます。

Q3-2.　今期に見込んでいたテゴプラザン日本ライセンスの一時金 10 億円のうち半額の 5 億円を 2025 年の収益見込み額として計上していると理解している。これは一時金 5 億円の公算が高まっているのか保守的に 5 億円としているのか、どちらか。逆に言えば、増額・上振れの可能性がある数字か。

A3-2.　契約一時金の額として現時点で確定しているものはございません。従いまして、5 億円で合意する見込みであるからそのように計上したということではなく、変動余地のある値であるとご理解ください。2025 年および 2026 年の事業収益につきましては、全般的に確度を重視して期初発表対比で減額した保守的な数値としております。増額・上積みを狙って全力で取り組んでまいります。

Q3-3.　米国におけるテゴプラザン承認時期はいつと見込まれるか。

A3-3.　実際に承認申請をいつ行うかに依存するため、当社からの確定的な回答は控えさせていただきます。なお、サブライセンス先である Braintree 社の親会社である Sebela 社様が 2024 年 5 月に出された会社紹介資料では、承認取得時期の見込みとして 2025 年/2026 年とされています。

Q3-3.　テゴプラザンについては、増資をしてでも自社開発・自社販売した方が企業価値を上げると思うがどうか。

A3-3.　当社としましても、開発パイプラインの価値向上には自社開発が重要であると考えております。ただし、テゴプラザンの日本での事業化につきましては、フェーズ 3 段階の大規模臨床試験を経て承認を取得し、マーケティング活動によって売上を拡大することを現在の当社が行うのは難しく、提携先企業が必要であると判断しております。

Q3-4.　テゴプラザンの日本国内ライセンスについて、サンクコストと見なして導出自体を断念するという検討をしたことはあるか。

A3-4.　当社内でもそういった議論をいたしました。ファイナンスの理論的背景だけで判断すれば、テゴプラザンは韓国やその他諸外国から得られた収益によって十分な投資回収ができているプログラムです。薬価や開発コストといった問題もあり、IRR の観点からは日本

国内向けの開発はむしろ不利とも言えます。
その上で当社が日本での上市の道を切り拓くべきだと考えた理由はいくつかございます。テゴプラザンの日本での上市に期待する株主・投資家の皆様の声に応えたいということ、日本の会社である以上日本の患者さんに届けることが重要な使命と考えていること、進行するドラッグロスを目の前にしてそれに加担してよいのかと考えたこと等がその理由です。

４． ファイメクスについて

Q4-1. ファイメクスの 3 年間の事業収益の減額が 20 億円に及ぶが、収益見通しの前提が甘かったのではないか。

A4-1. 収益見通しを減額したのは事実であり、前提が甘かったのではないかというご指摘を真摯に受け止め今後の改善を図ってまいります。また、今回お示しした計画値は成功確度を重視して算出した値であります。既存の共同研究の進展と新規案件の獲得により、発表値を上回る収益の獲得を目指しております。

〔関連するご質問〕

Q4-1-1. 今期のファイメクスの収益が下方修正されたということだが、買収時に想定していた契約案件の中で無くなったものがあるか。

A4-1-1. 残念ながら、買収時に想定/進行していた契約協議の中で成約に至らず交渉が終了したものもございます。

Q4-2. 同業他社に対するファイメクスの技術的な優位性は何か。

A4-2. ファイメクスは独自のプラットフォーム技術である RaPPIDS™を保有しております。新規かつ多様な標的タンパク質分解誘導剤を短時間で多数合成することができ、標的タンパク質の分解をハイスループットで直接評価することを可能にする手法でありますが、こうした技術を確立している会社は多くありません。ＡＩの利用を含む計算機的な手法が大幅に進歩している現在でも、標的タンパク質と E3 リガーゼとそれらに結合する分子から成る複合体構造を正確に予測することは困難です。実験による検証を高効率に行えるかどうかで実際の研究プログラムの進展速度は変わってきます。ファイメクスの技術や研究手法がもたらすスピードを評価いただいたことがアステラス製薬様との共同研究の開始と現在の良好な関係にも寄与していると考えております。
さらに、従来、標的タンパク質分解誘導剤で用いられてきた E3 リガーゼは生体内に 600 種類以上存在する中のわずか 10 種類ほどしかありません。実証的な手法である RaPPIDS™には、標的タンパク質ごとに最適な E3 リガーゼに結合する物質を探索できる可能性があり、これは従来の手法にはない大きな優位性です。

ラクオリア創薬株式会社 名古屋市中村区名駅南一丁目 21 番 19 号 名駅サウスサイドスクエア 8 階 〒450-0003 www.raqualia.com

Q4-3.　ファイメクスが新規の契約を海外企業と結べる可能性はあるか。海外企業と契約できないとしたら何か問題やボトルネックがあるのか。

A4-3.　当社はファイメクスが海外企業と契約できる可能性が十分にあると考えております。日本と海外での異なる事情の一例としましては、海外のメガファーマの場合は自社で創出したパイプラインが臨床段階にあることを重視する傾向がより強い等が挙げられます。この点が臨床段階のパイプラインを持たないファイメクスにとって不利に働いていることは否めません。

一方で、中堅の製薬企業や資金力のあるバイオベンチャーではそういった縛りを設けていない企業様が数多くいらっしゃいます。今後の海外向けの事業開発活動では、提携先となり得る企業のターゲティングやセグメンテーションをしっかりと行った上で新規契約の成約を目指します。

Q4-4.　ファイメクスが 2025 年の契約を獲得するには現時点でゼロ地点からのスタートであるような印象を受けたが実際はどうか。

A4-4.　これまでに継続的に協議させていただいている中で2025年の契約に進展すると期待できる企業様が複数いらっしゃいますので、ゼロ地点からのスタートという状況ではございません。現在協議させていただいている相手先企業から来期の契約につなげてまいりたいと考えております。

Q4-5.　ファイメクスについて、2024 年から 2026 年の売上を大幅に減額している。買収時に想定された中長期的な価値が失われたということで会計上は減損する必要があるのではないか。

A4-5.　ファイメクスの企業価値の算定は、中長期的な成長性と収益の可能性に基づいて行われており、短期的な実績や見通しの変更が即減損に繋がるという状態ではございません。減損の必要はないのかという議論を会計監査人との間で四半期毎に行っておりますが、現在のところ減損の判定には至っておりません。

今後も減損という事態に至らないようにしっかりと収益を確保できるように事業を進めてまいります。その上で減損の判定に至れば改めてお伝えしますが、現時点ではそのような判定に至っていないことはあらためて強調させていただきます。

Q4-6.　計画未達について、ファイメクス創業者に損害賠償や法的責任を問う考えはあるか。

A4-6.　そのような考えは持っておりません。期初計画は未達となる見込みでありますが、アステラス製薬様との共同研究は順調に進行しております。新規の契約獲得に至らなかったことに対する改善策等の対応は必要と考えておりますが、法的責任が問われるような事態として認識しているものはなく、損害賠償の必要性があるという認識もございません。

ラクオリア創薬株式会社　名古屋市中村区名駅南一丁目 21 番 19 号 名駅サウスサイドスクエア 8 階 〒450-0003　www.raqualia.com

〔関連するご質問〕

Q4-6-1.　ファイメクスの買収後、1 年を待たずに大幅な減額修正となったが、情報隠蔽などの詐欺行為は無かったのか。

A4-6-1.　上記と同様、そのようなものがあったという認識はございません。

5．IR について

Q5-1.　今回、業績の下方修正には至ったが、それでも他のバイオベンチャーの業績・株価と比較した場合、当社の株価は低すぎると感じる。妥当な株価にするための IR 活動の改善を行う考えはあるか。

A5-1.　ご支援の意を含む叱咤激励のお言葉として受け止めております。情報発信につきましては多面的な IR 活動を進めてまいります。適時適切な開示や決算説明会にとどまらず、例えば R&D 説明会等にも積極的に取り組んでまいります。当社の事業内容は専門的になりがちですが、しっかりとお伝えすることで株主・投資家の皆様にご理解を深めていただき、伸びしろも大きいとも考えられます。今後も分かりやすい資料やご説明の改善に努めてまいります。

また、最近の IR 活動におきまして、10 月から 11 月の一時期においてお問い合わせの回答が滞るという事態がございました。担当者の異動等の事情に起因した問題でありますが、ご不便をおかけした皆様にはあらためて深くお詫び申し上げます。人員の追加等の対応を進めてまいります。

〔関連した質問〕

Q5-1-1. 株主との対話により注力する考えはあるか？情報発信の少なさが株価低迷の要因とも考えている。

A5-1-1. ご意見を真摯に受けとめております。株主・投資家の皆様との対話につきましては、情報発信の充実化に努めてまいります。また、事実と異なる情報が SNS で流布している場合に、会社として否定のコメントを出して欲しいというご意見を頂戴することも増えております。従来、一般的には、会社側の反応がなされることで書き込みの当事者の行為を助長させ、流言をさらに増やすことに繋がることが指摘されておりましたし、当社もそのように考えておりました。ただ、不安によって株主・投資家の皆様の判断に大きな影響が生じるような事態をできるだけ防ぎたいとも考えております。悪意をもって事実と異なる情報の流布で株価を操作しようというような事態におきましては、当社からコメントを出すことも検討してまいります。

株価につきましては、当社の場合新たな大型契約の獲得が重要と市場から認識され、いまだその実現に至ってないことが株価低迷の主因となったと考えております。テゴ

ラクオリア創薬株式会社　名古屋市中村区名駅南一丁目 21 番 19 号 名駅サウスサイドスクエア 8 階 〒450-0003　www.raqualia.com

プラザンの日本におけるライセンスにご期待頂いた株主様も多くいらっしゃいますし、その期待に応えるべく取り組んでまいります。残念ながら今期の締結に至りませんでしたが、交渉は着実に進展しております。契約締結の実現によって、当社に対する評価を変えて株価の向上を図ってまいります。引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

Q5-1-2. Yahoo 掲示板で執拗に売り煽りを繰り返すアカウントがあり、投資家に不安を与えている。対策等は出来ないのか。

A5-1-2. 我々も非常に心を痛めております。具体的な人名を挙げた根拠のない言説が会社の価値を毀損していることは大変残念に思います。
しかしながら、掲示板の運営会社等に開示請求の申し入れをしても、事件性のないものは応じてもらえないのも現実でございます。業績と株価の点で成果をお見せするのが最良の対策と考えておりますが、一線を超えたものに対してはしかるべき対応をしたいと考えております。同業他社でもこの問題で悩んでおられる企業様は多く、悪質な売り煽りや誹謗中傷を防ぐ手段は業界としても必要だと認識しております。業界内の連携等も通じて有効な打開策を模索したいと考えております。

Q5-2. 当社は海外向けの IR 活動をどのように進めていく考えか。

A5-2. 海外の投資家の獲得は重要と考えておりますが、現在の時価総額からは、まず日本国内の投資家の方にご評価いただいて時価総額を上げていくことに注力してまいりたいと考えております。

6. パイプライン・研究開発について

Q6-1. グレリン受容体作動薬を前臨床段階での導出に切り替えた理由は何か。

A6-1. 複数の側面から判断したものです。現在狙っている適応疾患で価値を向上させるには一定以上の規模の臨床試験が必要であることに加え、患者さんのリクルートなどで多様な臨床開発ノウハウが求められると考えております。本パイプラインの臨床開発を進めるにはこの方面に経験を持つパートナーとの提携が重要と考えられますし、足許の財務状況からは事業費用を適切に管理する必要もございます。これらを複合した総合的な判断をしております。

Q6-2. 導出済みパイプラインの開発中止等でラクオリアの創薬技術の信頼性が低下していると感じる。この状態で研究開発に注力すると言っても信任されないのではないか。

A6-2. 現在取り組んでいる、低分子創薬技術の拡張や新モダリティへの挑戦は、従来の踏査の創薬基盤に立脚しつつ、新たな領域への拡大を図るためのものです。新たなシーズ

を生み出す力とそのシーズの価値を証明すべくメリハリの利いた投資を行ってまいります。

Q6-3.　年間 30 億円以上の研究開発費がかかっている理由は何か。何にお金を使っているのか不透明なため、多額の費用をかけて研究開発している意義を投資家に伝えられておらずもったいない。

A6-3.　ご意見をありがとうございます。研究開発を止めよということではなく、しっかりとした成果を上げてそれをわかりやすく伝えよという叱咤激励のお言葉として真摯に受け止め、今後の研究開発や IR 活動に取り組んでまいります。

Q6-4.　ティムス社はアカデミアから新規シーズを丁寧に拾ってパイプラインを増やしている。当社はアカデミアへのネットワークは持っているか。

A6-4.　当社は研究開発拠点の一つを名古屋大学のキャンパス内に持っておりますし、岐阜薬科大学ともパートナーシップがございます。ファイメクスは国内有数のバイオクラスターである湘南ヘルスイノベーションパーク内に位置しております。当社グループはアカデミアのみならずアカデミア発スタートアップからシーズや技術を得ることにも積極的に取り組んでおります。

７．　その他

Q7-1.　営業利益に対して純利益が少ないと感じるがどのような理由か。

A7-1.　海外の提携先からの収益に伴う外国法人税や支払利息等の影響によるものです。

Q7-2.　テムリックは今後ラクオリアグループの中でどのような位置づけになるか。

A7-2.　現在は Syros 社の事業再編の行方を注視し、同社との連絡を密に取っております。今後の方向性が定まってきたら適時適切にお知らせいたします。

Q7-3.　人材が流出しているという噂があるが実際はどうか。

A7-3.　当社は創薬ベンチャーの中では離職率が高い部類ではございませんが、退職を選択した従業員もおります。その一方で、新しいモダリティや低分子創薬の拡大に取り組むことに魅力を感じて新たに加わった従業員もおります。また、ファイメクスの子会社化によって有為な人材を当社グループに加えることもできました。皆様に成果をお示しできるように事業活動に取り組んでまいります。

Q7-4.　谷前社長は直接ライセンスでもサブライセンスでもロイヤルティ率は変わらないのが業界の常識と以前発言されたことがあるが、現在も同様の見解か。

A7-4.　直接ライセンスとサブライセンスでロイヤルティ率が変わらないのが当然とは考

えておりません。各当事者の役割や事業費用の負担によって開発化合物の価値は変動しますので、ロイヤルティ率や収益の按分率にも影響が生じえます。その一方で、交渉によって動く部分でもありますので、付加価値の高い開発候補品を生み出して丁寧かつ粘り強く交渉を行うことで、サブライセンスであっても直接ライセンスと同等以上の収益を得ることは可能と考えております。
なお、個別のライセンス案件のロイヤルティ率は契約で定める秘密情報でありますので、非開示とさせていただいております。このことが当社と提携先とのライセンス契約において、サブライセンスの条件が直接ライセンスに劣ることを意味するものでもございません。SNS 等で流布する情報には実際と異なるものも含まれておりますのでご注意ください。

以上

ラクオリア創薬株式会社 名古屋市中村区名駅南一丁目 21 番 19 号 名駅サウスサイドスクエア 8 階 〒450-0003 www.raqualia.com